

## 2023 年 A セメスター 認知脳科学（月 2） 石金教授

試験は 90 分。持ち込み不可。問題用紙は回収されたので、この過去問は作成者の記憶から作成されたことにご注意ください。あくまでも覚えている問題をなんとなく記録しているだけで、本来の問題はかなり意味が取りにくかったです。また、学問上の表現の仕方が間違っている可能性があります。“”参考“”にお使いください。

### 大問 1 正誤問題 60 点

1. 授業で扱われた A,B,C と 12,13,14 の文字列において、同じ文字にも関わらず B と 13 に見えるのはトップダウン処理が不安定だからである。
2. T-ジャンクションによって、人間は奥行きを常に正しく効率よく把握することができる。
3. 実際の物体の大きさが違って、視覚が同じなら網膜上の映像の大きさは同じである。
4. 人間の新生児は脳皮質より皮質下の方が相対的に成長が早く、皮質下経路を介して画面上に表示された大きい黒いスポットと小さいスポットを区別することができる。
5. 運動残効は両眼差転移が発生する。
6. 紡錘状回には建物認識の刺激で活性化する部位がある。

### 大問 2 40 点



授業で左図を用いて説明された実験の方法と結果について可能な限り詳細に述べた上で、その実験結果になる理由を日本語または英語で記述せよ。必要に応じて図を書いても良い。

